

山田國廣著

福島県にける院内ガン登録のトレンド解析結果
『福島県において22部位のガンが原発事故
要因で急増していた』



福島原発事故放射能汚染公害被害原因裁定を求める会

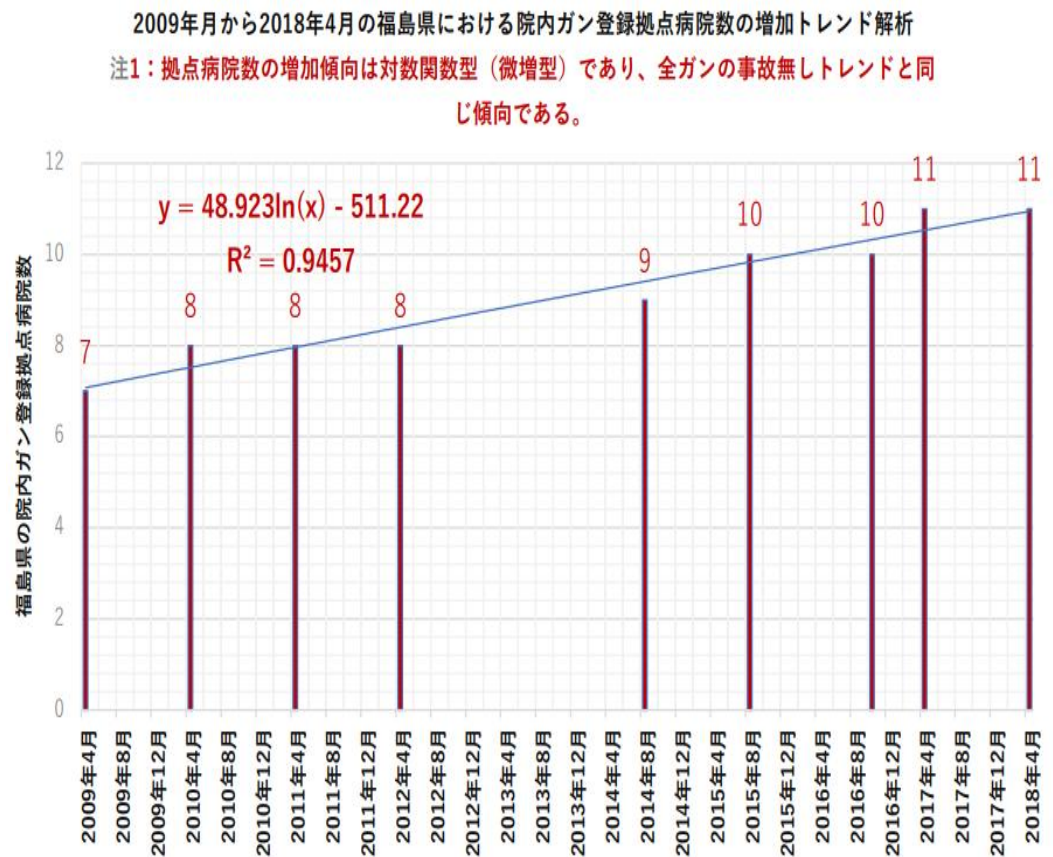
2009年4月から2018年4月の福島県における院内ガン登録拠点病院数の増加トレンド解析

注1: 拠点病院数の増加傾向は対数関数型(微増型)であり、全ガンの事故無しトレンドと同じ傾向である。

◎データの情報源: 国立がんセンターがん対策情報センター、がん情報・統計部 院内ガン登録室発行「がん診療連携教典病院 院内ガン登録: 2008年～2017年の全国集計報告書」より拠点病院数を引用

URL: https://gango.go.jp/report/report/hosp_c/hosp_c_registry

指定年	福島県における院内ガン登録拠点病院数
2009年4月	7
2010年4月	8
2011年4月	8
2012年4月	8
2014年8月	9
2015年8月	10
2016年10月	10
2017年4月	11
2018年4月	11



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録 22 部位別がんのトレンド解析・プログラム算定表

◎データの情報源:国立がんセンターがん対策情報センター、がん情報・統計部 院内ガン登録室発行「がん診療連携教典病院 院内ガン登録:2008年～2017年の全国集計報告書」より県別・部位別のガン登録数を引用

URL: <https://gangoho.jp>report>report>hosp c>hosp c registry>

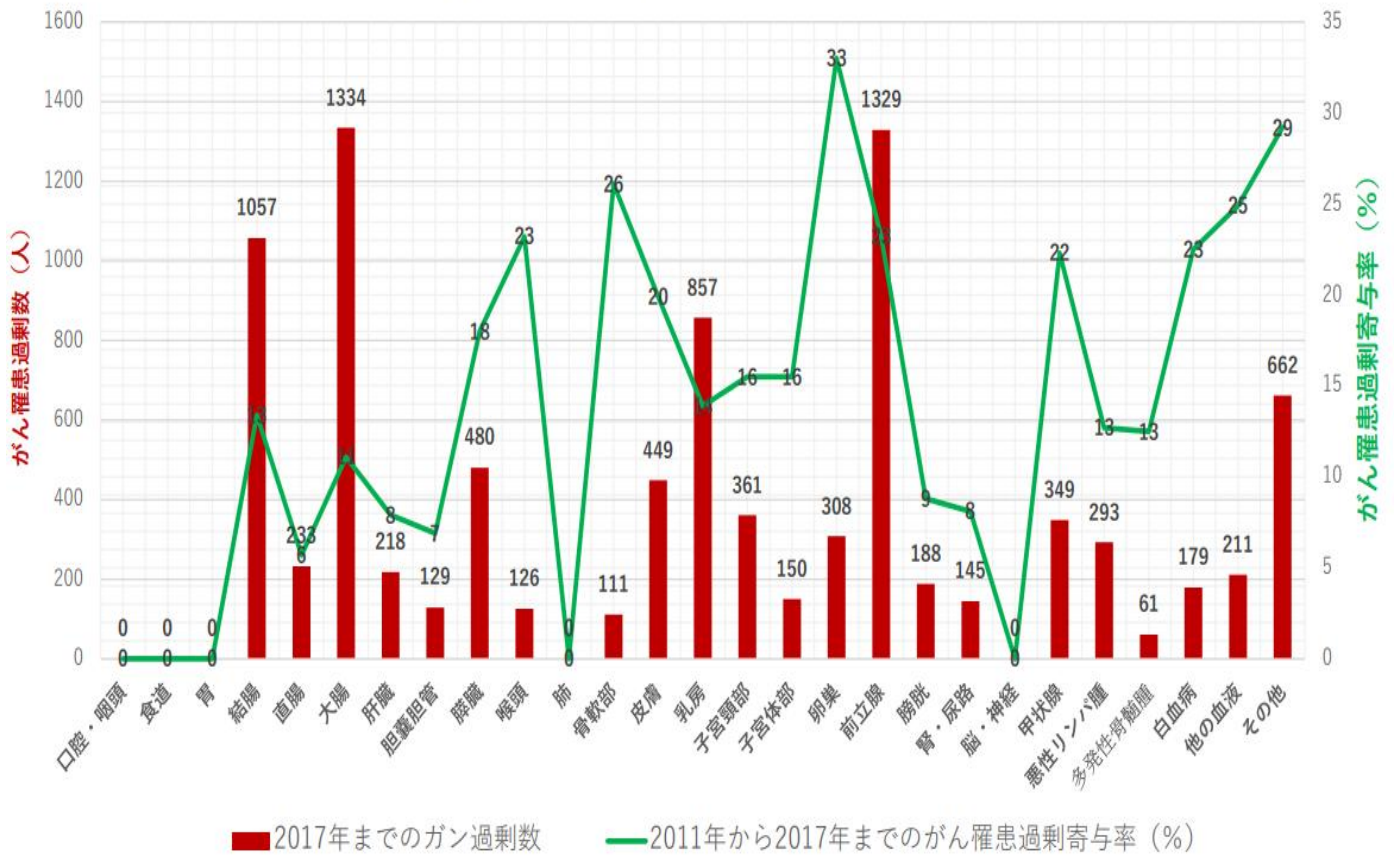
部位番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
都道府県名	調査年	口腔・咽頭	食道	胃	結腸	直腸	大腸	肝臓	胆嚢胆管	膵臓	喉頭	肺	骨軟部	皮膚	乳房	子宮頸部	子宮体部	卵巣	前立腺	膀胱	腎・尿路	脳・神経	甲状腺	悪性リンパ腫	多発性骨髄腫	白血病	他の血液	その他	全ガン
福島県	2008年	163	246	1330	841	463	1304	300	222	255	56	1032	28	236	634	210	106	110	437	199	188	173	122	233	48	78	48	295	9357
	2009年	238	324	1376	906	477	1383	375	233	297	62	1062	41	249	629	246	108	92	546	191	218	317	151	290	65	73	55	229	10233
	2010年	278	353	1523	912	524	1436	317	241	281	56	1309	35	249	729	249	151	102	537	270	216	353	153	254	51	88	76	273	11016
	2011年	247	294	1406	887	505	1392	362	270	298	64	1164	40	232	702	252	141	112	542	226	226	329	151	282	59	90	91	256	10620
	2012年	253	326	1537	1040	538	1578	348	248	366	59	1355	49	295	753	312	157	127	743	257	182	370	189	242	55	79	108	291	11857
	2013年	312	391	1568	1121	610	1731	385	243	298	89	1313	54	310	776	365	198	145	777	265	252	429	244	348	65	118	104	307	12818
	2014年	351	410	1449	1125	551	1676	394	243	405	90	1359	56	331	817	345	205	163	827	278	242	368	242	312	71	129	116	326	12881
	2015年	353	361	1604	1246	586	1832	419	258	417	87	1417	60	317	876	335	195	133	946	321	253	388	271	374	76	107	109	354	13695
	2016年	330	382	1649	1237	647	1884	421	320	440	77	1428	86	386	1087	327	190	123	946	400	298	369	218	365	85	133	141	372	14341
	2017年	376	334	1607	1225	651	1876	416	305	438	74	1448	78	383	1169	398	241	129	949	397	335	365	249	376	74	140	177	359	14569
	2017年/2010年	1.4	0.9	1.1	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.6	1.3	1.1	2.2	1.5	1.6	1.6	1.6	1.3	1.8	1.5	1.6	1.0	1.6	1.5	1.5	1.6	2.3	1.3	1.3

2011年から2017年の埼玉県における福島第一原発事故 原因による27部位別・がん罹患過剰数（人）とがん罹患過 剰寄与率（%）

部位番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
都道府県名	口 腔・ 咽頭	食 道	胃	結 腸	直 腸	大 腸	肝 臓	胆 嚢 胆 管	脾 臓	喉 頭	肺	骨 軟 部	皮 膚	乳 房	子 宮 頸 部	子 宮 体 部	卵 巣	前 立 腺	膀 胱	腎 ・ 尿 路	脳 ・ 神 経	甲 状 腺	悪 性 リン パ 腫	多 発 性 骨 髄 腫	白 血 病	他 の 血 液	そ の 他	全 ガ ン
2017年までのガン過剰数	0	0	0	1057	233	1334	218	129	480	126	0	111	449	857	361	150	308	1329	188	145	0	349	293	61	179	211	662	6571
福島県 2011年から2017年までのがん罹患過剰寄与率（%）	0	0	0	13	6	11	8	7	18	23	0	26	20	14	16	16	33	23	9	8	0	22	13	13	23	25	29	7

2011年から2017年の福島県における福島第一原発事故原因による27部位別・がん罹患過剰数（人）とがん罹患過剰率（%）

2011年から2017年の福島県における福島第一原発事故原因による27部位別・がん罹患過剰数（人）とがん罹患過剰率（%）

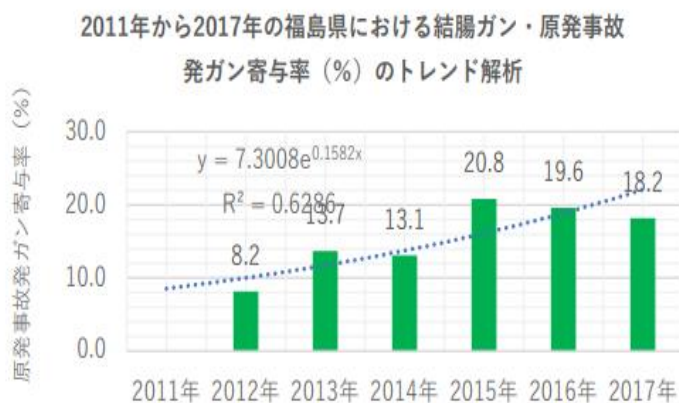


2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・結腸がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した結腸がん登録者の合計人数→1057人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは指数関数(急増型)であり2012年には8.2%、2017年には18.2%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	結腸(事故無しトレンド)	結直腸(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	841	841		
2	2009年	906	906		
3	2010年	912	912		
4	2011年	940	887	-53	-6.0
5	2012年	955	1040	85	8.2
6	2013年	967	1121	154	13.7
7	2014年	978	1125	147	13.1
8	2015年	987	1246	259	20.8
9	2016年	995	1237	242	19.6
10	2017年	1002	1225	223	18.2
	合計(2011年~2017年)	6824	7881	1057	13.4

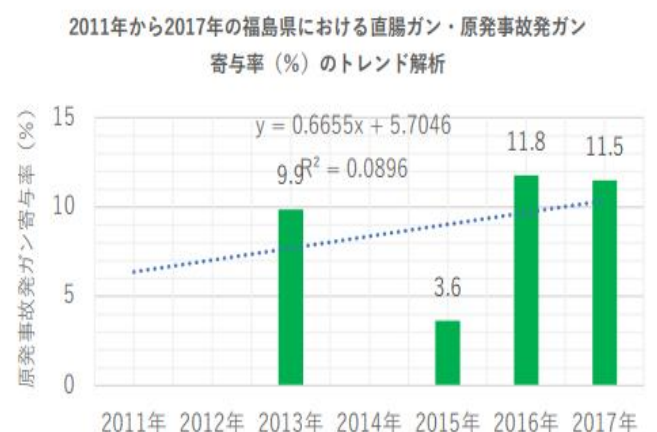
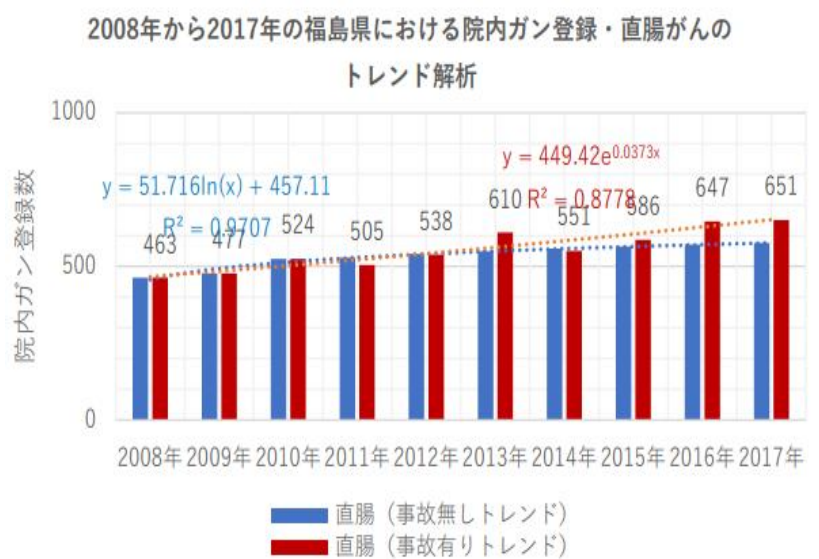


2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・直腸がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した直腸がん登録者の合計人数→233人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2013年には9.9%、2017年には11.5にまで微増し、この横ばい傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	直腸(事故無し トレンド)	直腸(事故有り トレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄 与率(%)
1	2008年	463	463		
2	2009年	477	477		
3	2010年	524	524		
4	2011年	529	505		0.0
5	2012年	540	538		0.0
6	2013年	550	610	60	9.9
7	2014年	558	551		0.0
8	2015年	565	586	21	3.6
9	2016年	571	647	76	11.8
10	2017年	576	651	75	11.5
	合計(2011年~2017年)	3888	4088	233	5.7



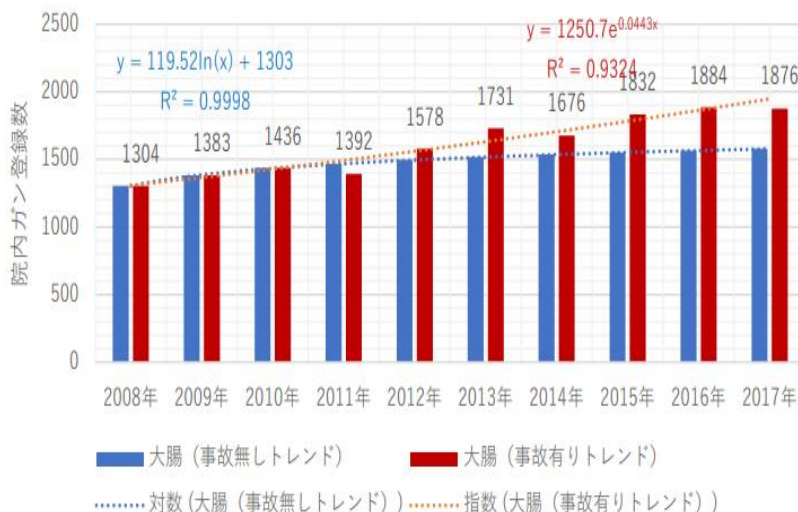
2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・大腸がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した大腸がん登録者の合計人数→1334人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは指数関数(急増型)であり2012年には5.2%、2017年には15.9%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	大腸(事故無しトレンド)	大腸(事故有りトレンド)	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	1304	1304	
2	2009年	1383	1383	
3	2010年	1436	1436	
4	2011年	1469	1392	
5	2012年	1495	1578	83
6	2013年	1517	1731	214
7	2014年	1536	1676	140
8	2015年	1551	1832	281
9	2016年	1566	1884	318
10	2017年	1578	1876	298
	合計(2011年~2017年)	10712	11969	1334

2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・大腸がんのトレンド解析



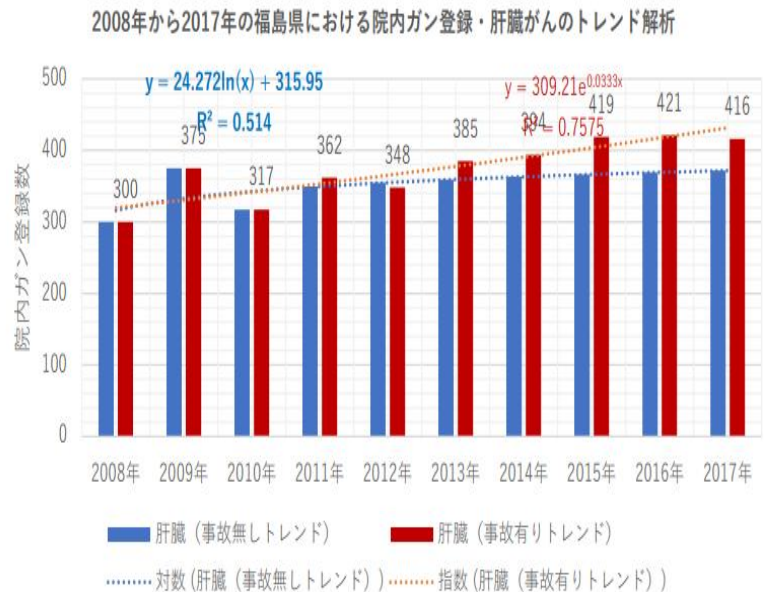
2011年から2017年の福島県における大腸ガン・原発事故発ガン寄与率(%)のトレンド解析



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・肝臓がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した肝臓がん登録者の合計人数→2745人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2011年には3.5%、2016年には12.3%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	肝臓(事故無し)トレンド	肝臓(事故有り)トレンド	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
	12008年	300	300		
	22009年	375	375		
	32010年	317	317		
	42011年	349	362	13	3.5
	52012年	355	348		
	62013年	359	385	26	6.7
	72014年	363	394	31	7.8
	82015年	366	419	53	12.6
	92016年	369	421	52	12.3
	102017年	372	416	44	10.6
	合計(2011年~2017年)	2534	2745	218	7.9

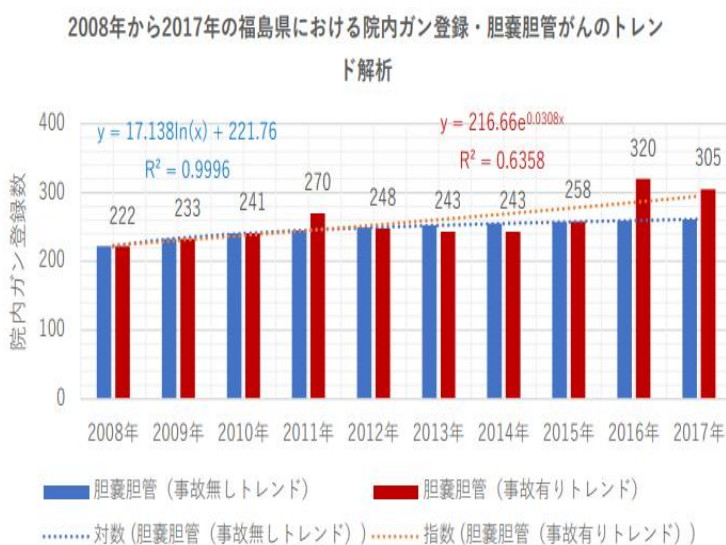


2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・胆嚢胆管がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した胆嚢胆管がん登録者の合計人数→129人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは2011年には9.1%、2016年には18.9%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	胆嚢胆管 (事故無し トレンド)	胆嚢胆管 (事故有り トレンド)	ガン過剰数	原発事故 発ガン寄 与率 (%)
1	2008年	222	222		
2	2009年	233	233		
3	2010年	241	241		
4	2011年	246	270	24	9.1
5	2012年	249	248		
6	2013年	252	243		
7	2014年	255	243		
8	2015年	257	258	1	0.2
9	2016年	259	320	61	18.9
10	2017年	261	305	44	14.4
	合計(2011年~ 2017年)	1780	1887	129	6.9

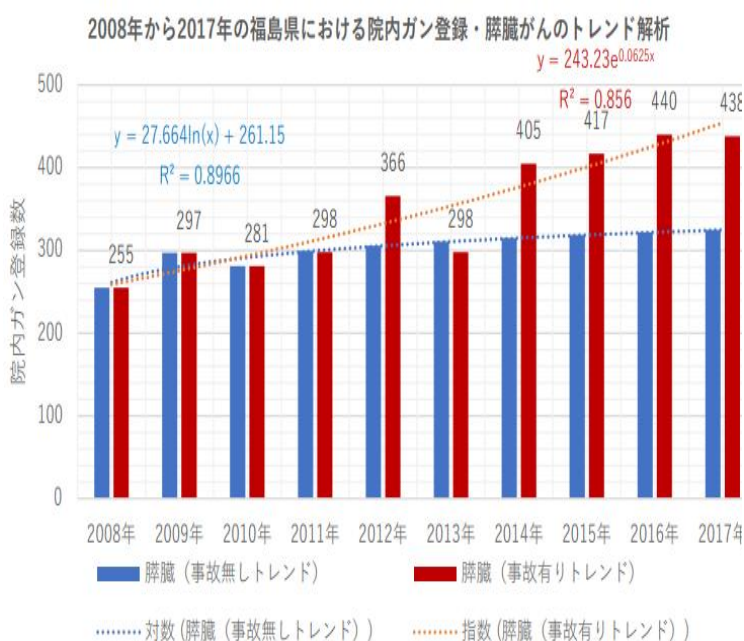


2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・膵臓がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した膵臓がん登録者の合計人数→480人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2012年には16.5%、2017年には25.8%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	膵臓(事故無しトレンド)	膵臓(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	255	255		
2	2009年	297	297		
3	2010年	281	281		
4	2011年	300	298		0.0
5	2012年	306	366	60	16.5
6	2013年	311	298		0.0
7	2014年	315	405	90	22.2
8	2015年	319	417	98	23.6
9	2016年	322	440	118	26.8
10	2017年	325	438	113	25.8
	合計(2011年~2017年)	2196	2662	480	18.0



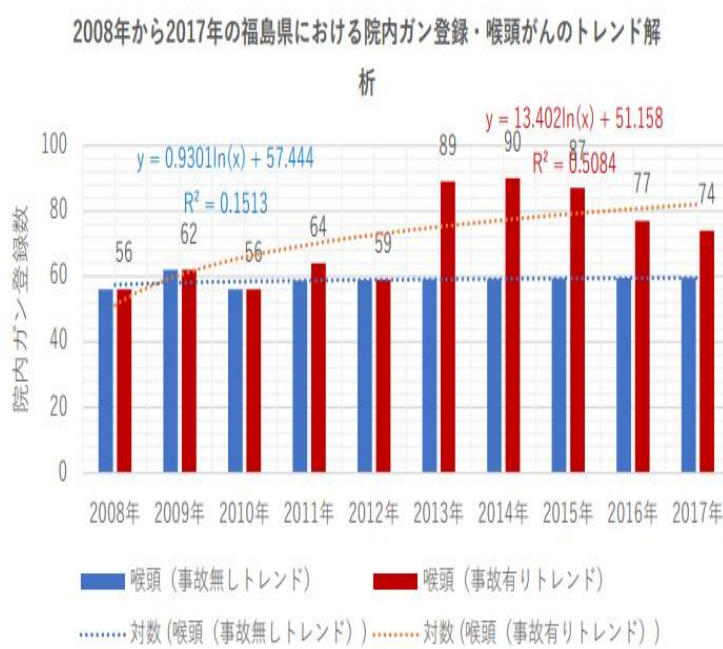
2011年から2017年の福島県における膵臓ガン・原発事故発ガン寄与率(%)のトレンド解析



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・咽頭がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した咽頭がん登録者の合計人数→126人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは多項式(ピーク型)であり2011年には8.2%、2014年には34.2%でピークになり、その後は微減傾向が持続すると推定される。

経過年	調査年	喉頭(事故無しトレンド)	喉頭(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	56	56		
2	2009年	62	62		
3	2010年	56	56		
4	2011年	59	64	5	8.2
5	2012年	59	59	0	0.1
6	2013年	59	89	30	33.6
7	2014年	59	90	31	34.2
8	2015年	59	87	28	31.7
9	2016年	59	77	18	22.7
10	2017年	60	74	14	19.5
	合計(2011年~2017年)	414	540	126	23.2



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・骨軟部がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した骨軟部がん登録者の合計人数
→111人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり
2011年には0%、2016年には29%にまで増加し、この傾向は今後も持続
すると推定される。

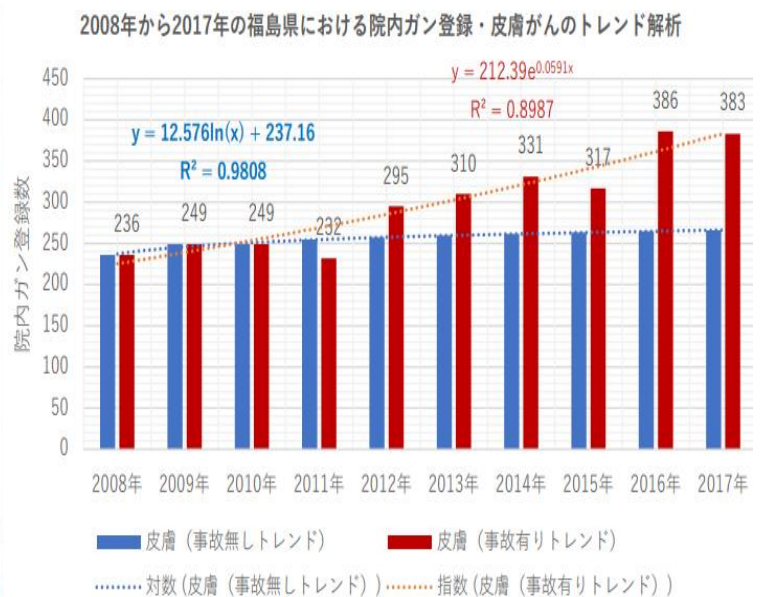
福島県における骨軟部がんのトレンド解析					
経過年	調査年	骨軟部(事故無し)トレンド	骨軟部(事故有り)トレンド	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	28	28		
2	2009年	41	41		
3	2010年	35	35		
4	2011年	41	40		0.0
5	2012年	42	49	7	13.3
6	2013年	44	54	10	18.7
7	2014年	45	56	11	19.5
8	2015年	46	60	14	23.1
9	2016年	47	86	39	45.3
10	2017年	48	78	30	38.7
	合計(2011年~2017年)	313	423	111	26.1

2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・皮膚がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した皮膚がん登録者の合計人数→449人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2012年には12.7%、2017年には30.5%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

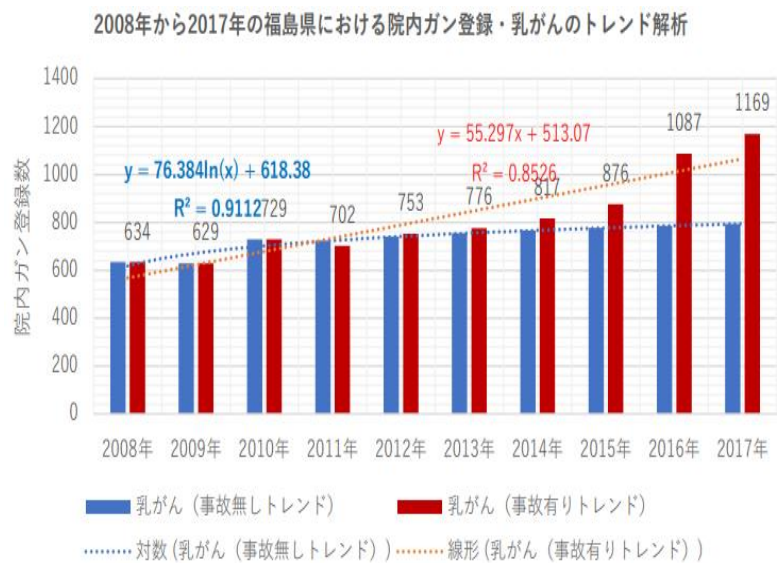
経過年	調査年	皮膚(事故無し)トレンド	皮膚(事故有り)トレンド	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	236	236		
2	2009年	249	249		
3	2010年	249	249		
4	2011年	255	232		0.0
5	2012年	257	295	38	12.7
6	2013年	260	310	50	16.2
7	2014年	262	331	69	21.0
8	2015年	263	317	54	16.9
9	2016年	265	386	121	31.4
10	2017年	266	383	117	30.5
	合計(2011年~2017年)	1827	2254	449	19.9



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・乳がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した乳がん登録者の合計人数→857人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2012年には1.6%、2017年には32.1%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

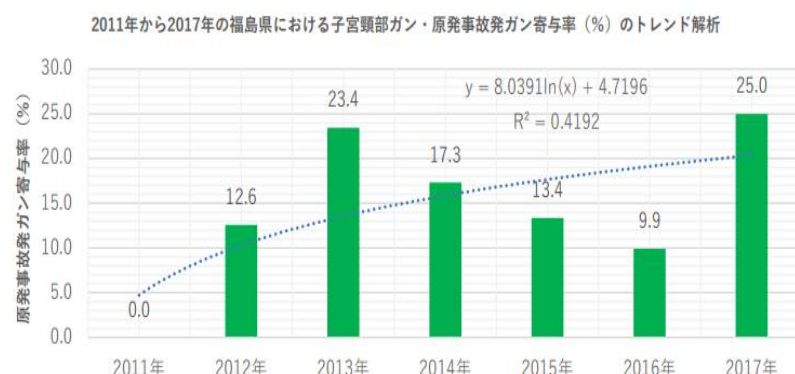
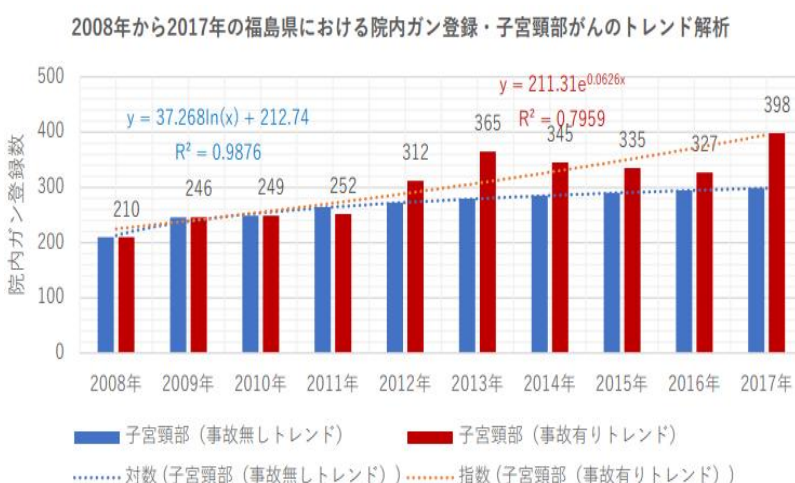
経過年	調査年	乳がん(事故無しトレンド)	乳がん(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
	12008年	634	634		
	22009年	629	629		
	32010年	729	729		
	42011年	724	702		0.0
	52012年	741	753	12	1.6
	62013年	755	776	21	2.7
	72014年	767	817	50	6.1
	82015年	777	876	99	11.3
	92016年	786	1087	301	27.7
	102017年	794	1169	375	32.1
	合計(2011年~2017年)	5346	6180	857	13.9



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・子宮頸部がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した子宮頸部がん登録者の合計人数→361人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは対数関数(微増型)であり2012年には12.6%、2017年には25%にまで微増し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	子宮頸部(事故無しトレンド)	子宮頸部(事故有りトレンド)	原発事故発ガン寄与率(%)	
1	2008年	210	210		
2	2009年	246	246		
3	2010年	249	249		
4	2011年	264	252	0.0	
5	2012年	273	312	39	12.6
6	2013年	280	365	85	23.4
7	2014年	285	345	60	17.3
8	2015年	290	335	45	13.4
9	2016年	295	327	32	9.9
10	2017年	299	398	99	25.0
	合計(2011年~2017年)	1985	2334	361	15.5

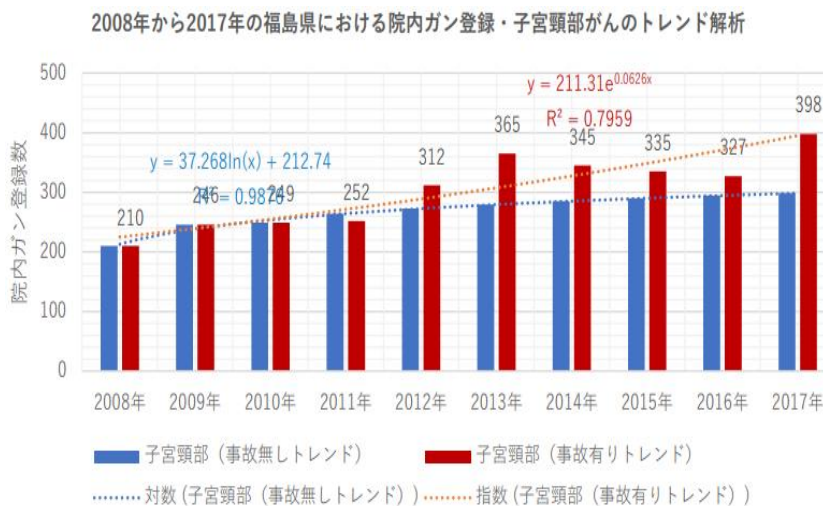


2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・子宮体部がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した子宮体部がん登録者の合計人数→361人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは対数関数(微増型)であり2012年には12.6%、2017年には25%にまで増加し、この微増傾向は今後も持続すると推定される。

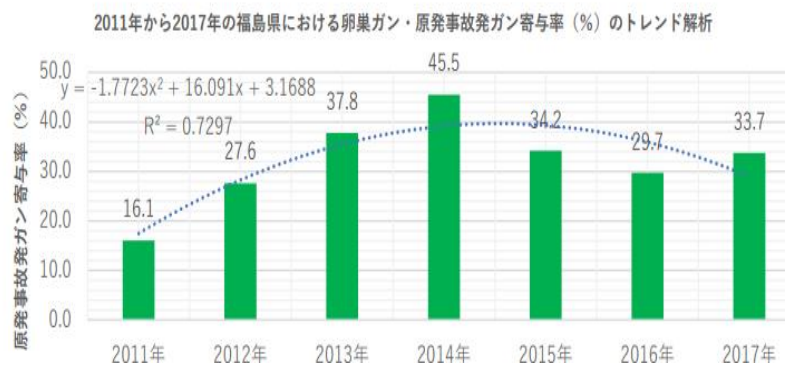
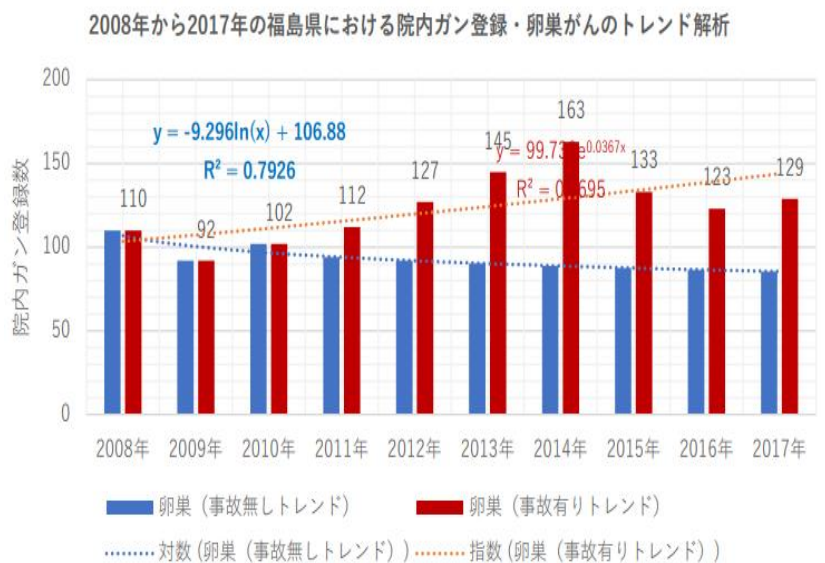
経過年	調査年	子宮頸部 (事故無し トレンド)	子宮頸部 (事故有り トレンド)	ガン過剰 数	原発事故 発ガン寄 与率 (%)	ガン過剰 率
1	2008年	210	210			
2	2009年	246	246			
3	2010年	249	249			
4	2011年	264	252		0.0	1.0
5	2012年	273	312	39	12.6	1.1
6	2013年	280	365	85	23.4	1.3
7	2014年	285	345	60	17.3	1.2
8	2015年	290	335	45	13.4	1.2
9	2016年	295	327	32	9.9	1.1
10	2017年	299	398	99	25.0	1.3
	合計(2011年~ 2017年)	1985	2334	361	15.5	



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・卵巣がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した卵巣がん登録者の合計人数→308人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは多項式関数(ピーク型)であり2011年には16.1%、2014年には45.5%でピークになり、その後は微減傾向が持続している。

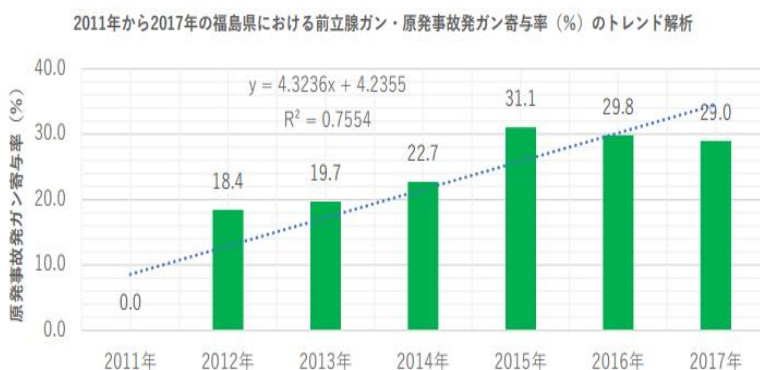
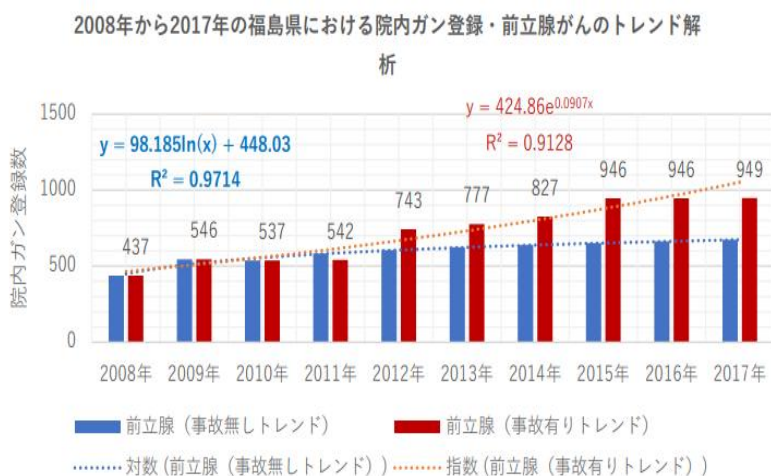
経過年	調査年	卵巣(事故無しトレンド)	卵巣(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
	12008年	110	110		
	22009年	92	92		
	32010年	102	102		
	42011年	94	112	18	16.1
	52012年	92	127	35	27.6
	62013年	90	145	55	37.8
	72014年	89	163	74	45.5
	82015年	88	133	45	34.2
	92016年	86	123	37	29.7
	102017年	85	129	44	33.7
	合計(2011年~2017年)	624	932	308	33.0



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・前立腺がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した前立腺がん登録者の合計人数 →1329人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2012年には18.4%、2017年には29%にまで増加し、その後もこの傾向は持続すると推定される。

経過年	調査年	前立腺(事故無しトレンド)	前立腺(事故有リトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	437	437		
2	2009年	546	546		
3	2010年	537	537		
4	2011年	584	542		0.0
5	2012年	606	743	137	18.4
6	2013年	624	777	153	19.7
7	2014年	639	827	188	22.7
8	2015年	652	946	294	31.1
9	2016年	664	946	282	29.8
10	2017年	674	949	275	29.0
	合計(2011年~2017年)	4443	5730	1329	23.2

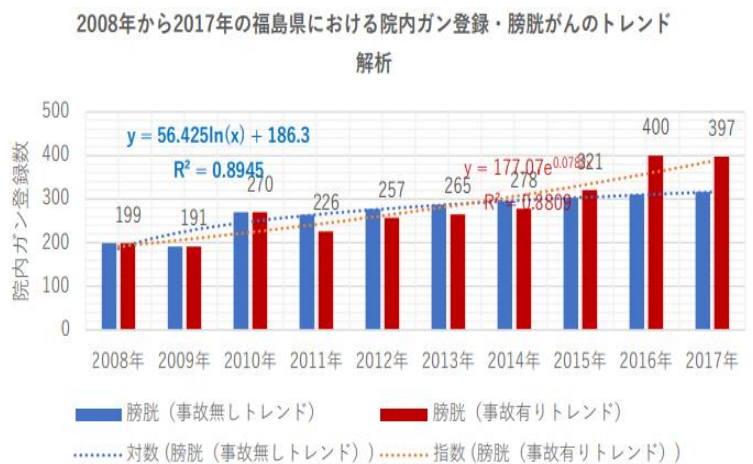


2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・膀胱がんのトレンド解析

①原事故原因で2017年までに増加した膀胱がん登録者の合計人数→188人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2014年まではゼロ%、2015年には5.4%、2017年には20.3%で、この直線的増加傾向は今後も持続すると推定される。

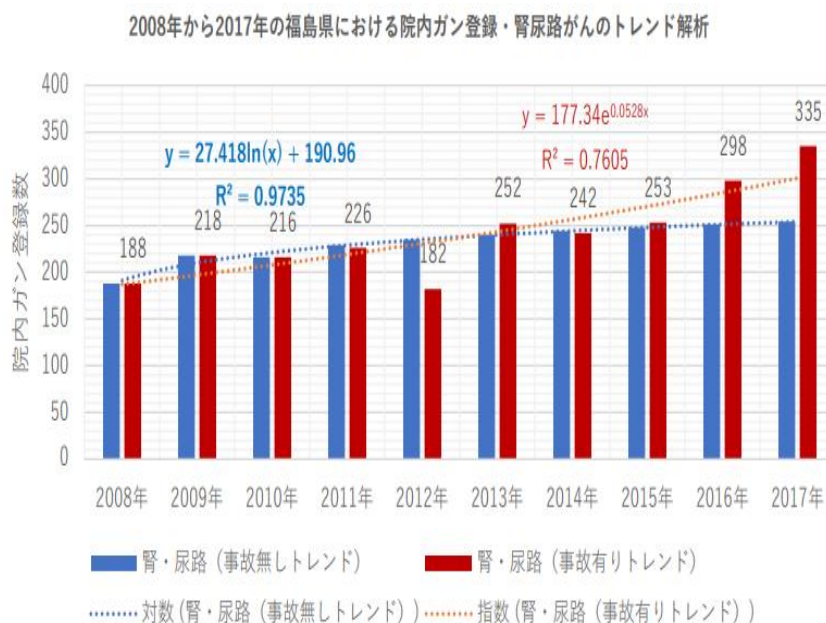
経過年	調査年	膀胱(事故無しトレンド)	膀胱(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	199	199		
2	2009年	191	191		
3	2010年	270	270		
4	2011年	265	226		0.0
5	2012年	277	257		0.0
6	2013年	287	265		0.0
7	2014年	296	278		0.0
8	2015年	304	321	17	5.4
9	2016年	310	400	90	22.4
10	2017年	316	397	81	20.3
	合計(2011年~2017年)	2055	2144	188	8.8



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・腎尿路がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した腎尿路がん登録者の合計人数→145人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2013年には4.7%、2017年には24.2%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	腎・尿路(事故無しトレンド)	腎・尿路(事故有りトレンド)	原発事故発ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
	12008年	188	188		
	22009年	218	218		
	32010年	216	216		
	42011年	229	226		0.0
	52012年	235	182		0.0
	62013年	240	252	12	4.7
	72014年	244	242		0.0
	82015年	248	253	5	2.0
	92016年	251	298	47	15.7
	102017年	254	335	81	24.2
	合計(2011年~2017年)	1702	1788	145	8.1

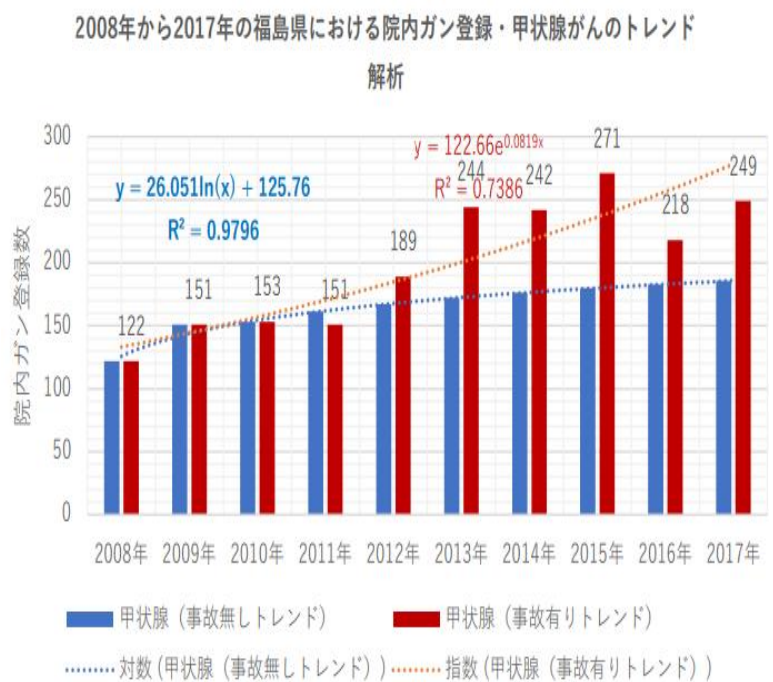


2008年から2017年の福島県における院内ガにはん登録・甲状腺がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した甲状腺がん登録者の合計人数→349人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは多項式関数(ピーク型)であり2012年11.5%、2015年は33.7%でピークになり、それ以後は微減傾向で2017年には25.4%にまで減少したが、ゼロにはならず微減傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	甲状腺(事故無しトレンド)	甲状腺(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	122	122		
2	2009年	151	151		
3	2010年	153	153		
4	2011年	161	151		0.0
5	2012年	167	189	22	11.5
6	2013年	172	244	72	29.5
7	2014年	176	242	66	27.2
8	2015年	180	271	91	33.7
9	2016年	183	218	35	16.1
10	2017年	186	249	63	25.4
	合計(2011年~2017年)	1225	1564	349	22.3



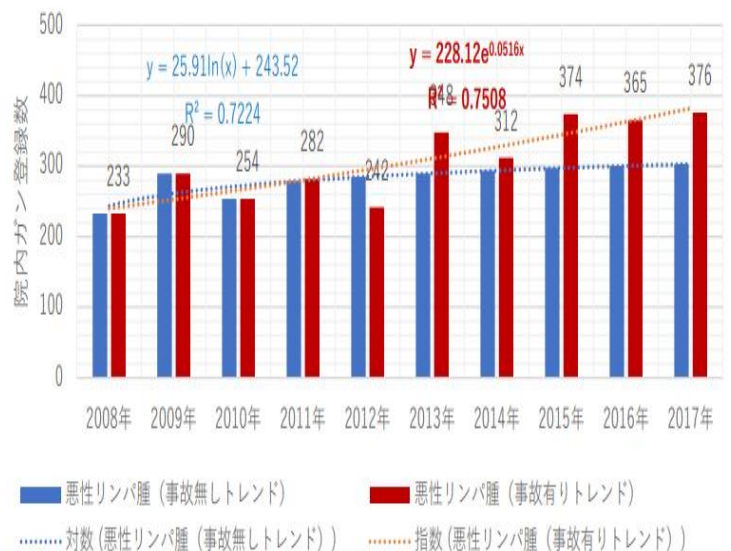
2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・悪性リンパ腫がんのトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した悪性リンパ腫登録者の合計人数→293人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは対数関数(微増型)であり2011年には0.9%、2017年には19.4%にまで増加し、この微増傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	悪性リンパ腫(事故無しトレンド)	悪性リンパ腫(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)	ガン過剰率
	12008年	233	233			
	22009年	290	290			
	32010年	254	254			
	42011年	279	282	3	0.9	1.0
	52012年	285	242		0.0	0.8
	62013年	290	348	58	16.7	1.2
	72014年	294	312	18	5.8	1.1
	82015年	297	374	77	20.5	1.3
	92016年	300	365	65	17.7	1.2
	102017年	303	376	73	19.4	1.2
	合計(2011年~2017年)	2050	2299	293	12.7	

2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・悪性リンパ腫のトレンド解析



2011年から2017年の福島県における悪性リンパ腫・原発事故発ガン寄与率(%)のトレンド解析

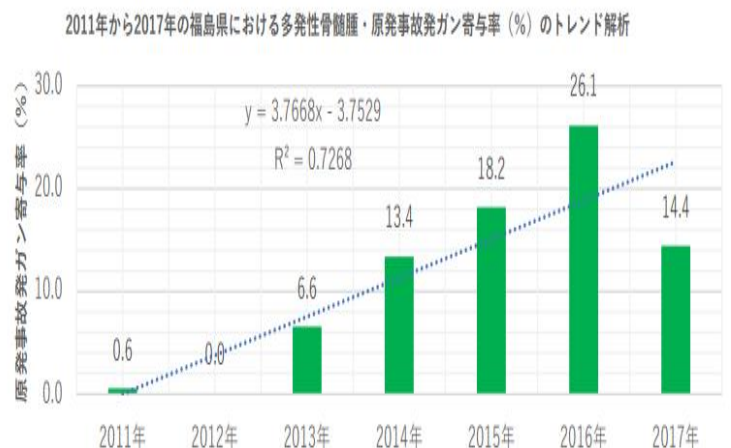
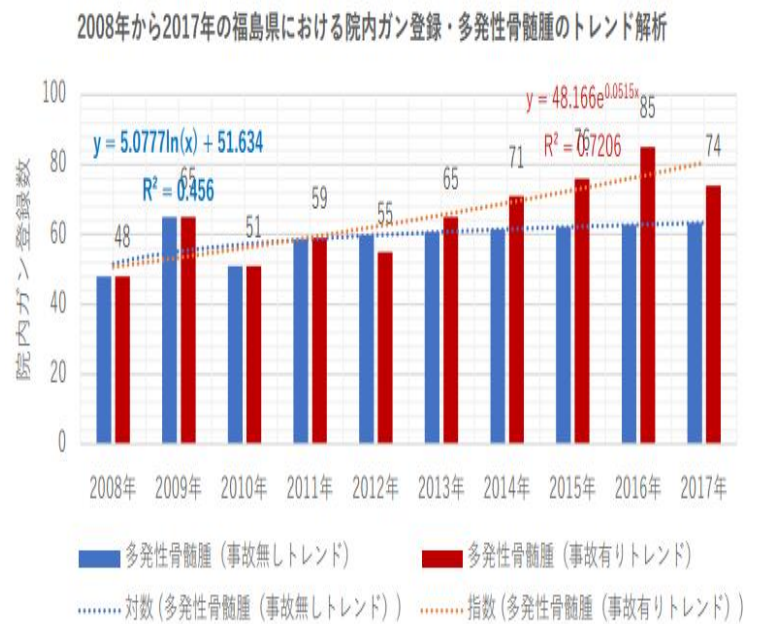


2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・多発性骨髄腫のトレンド解析

①原発事故原因で2017年までに増加した多発性骨髄腫登録者の合計人数→61人

②原発事故発ガン寄与率のトレンドは線形関数(一定倍率増加型)であり2013年には6.6%、2016年には26.1%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

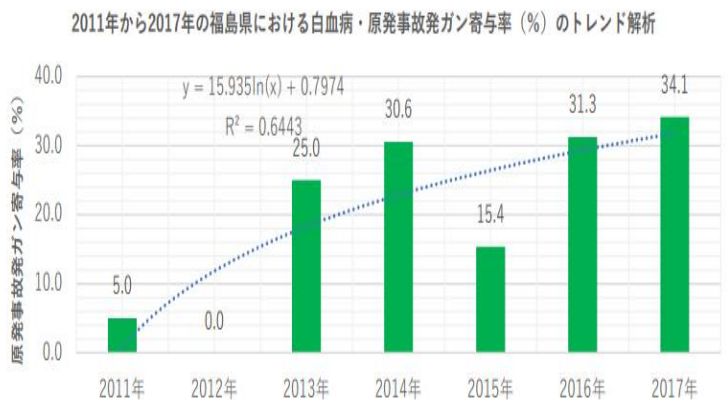
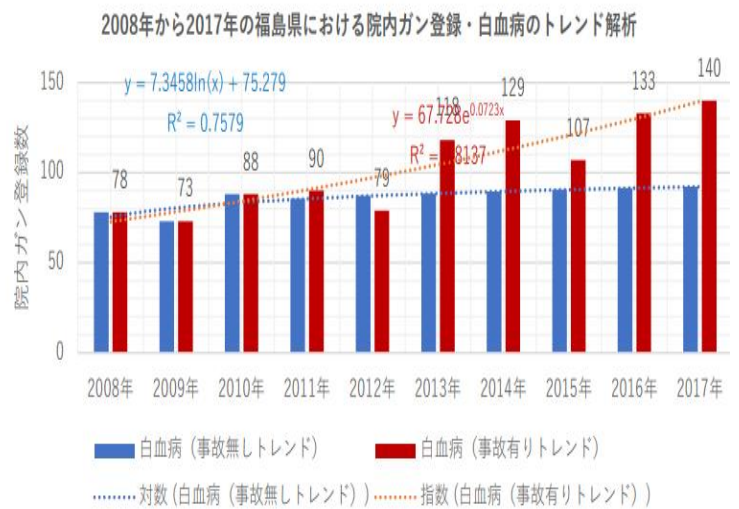
経過年	調査年	多発性骨髄腫 (事故無しトレンド)	多発性骨髄腫 (事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率 (%)
	12008年	48	48		
	22009年	65	65		
	32010年	51	51		
	42011年	59	59	0	0.6
	52012年	60	55		0.0
	62013年	61	65	4	6.6
	72014年	62	71	9	13.4
	82015年	62	76	14	18.2
	92016年	63	85	22	26.1
	102017年	63	74	11	14.4
	合計(2011年~2017年)	429	485	61	12.5



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・白血病のトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した白血病登録者の合計人数→179人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは対数関数(微増型)であり2011年には5%、2017年には34.1%にまで増加し、この微増傾向は今後も持続すると推定される。

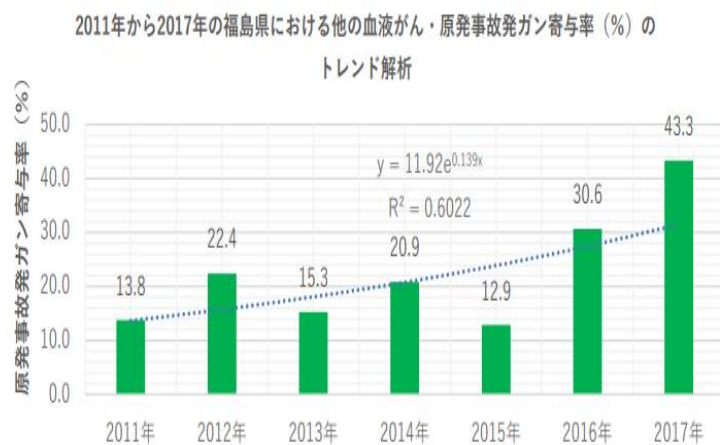
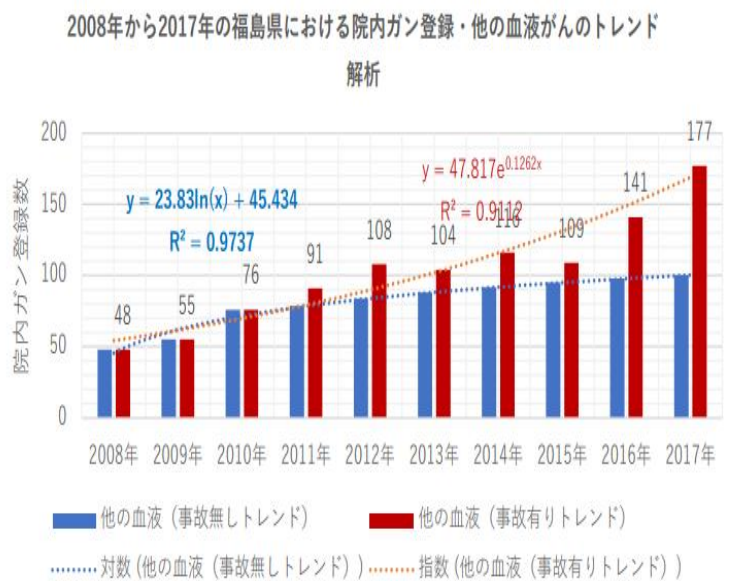
経過年	調査年	白血病(事故無しトレンド)	白血病(事故有りトレンド)	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率(%)
1	2008年	78	78		
2	2009年	73	73		
3	2010年	88	88		
4	2011年	85	90	5	5.0
5	2012年	87	79		0.0
6	2013年	88	118	30	25.0
7	2014年	90	129	39	30.6
8	2015年	91	107	16	15.4
9	2016年	91	133	42	31.3
10	2017年	92	140	48	34.1
	合計(2011年~2017年)	625	796	179	22.5



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・他の血液がんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加した他の血液がん登録者の合計人数→211人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは指数関数(急増型)であり2011年には13.8%、2017年には43.3%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

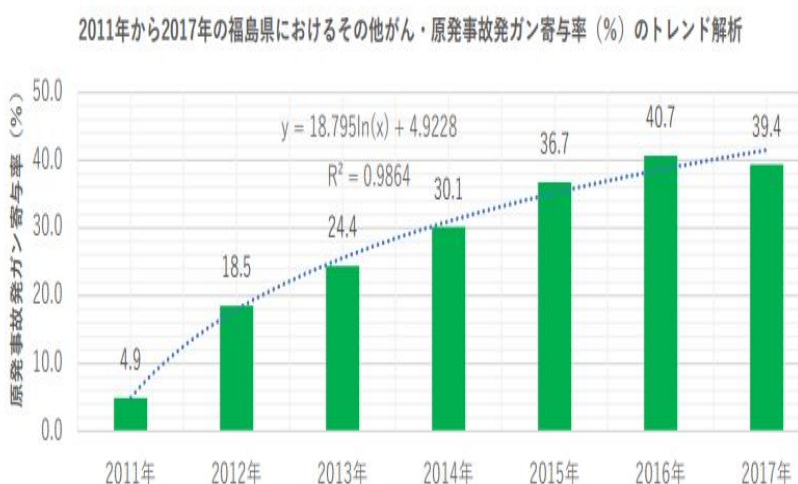
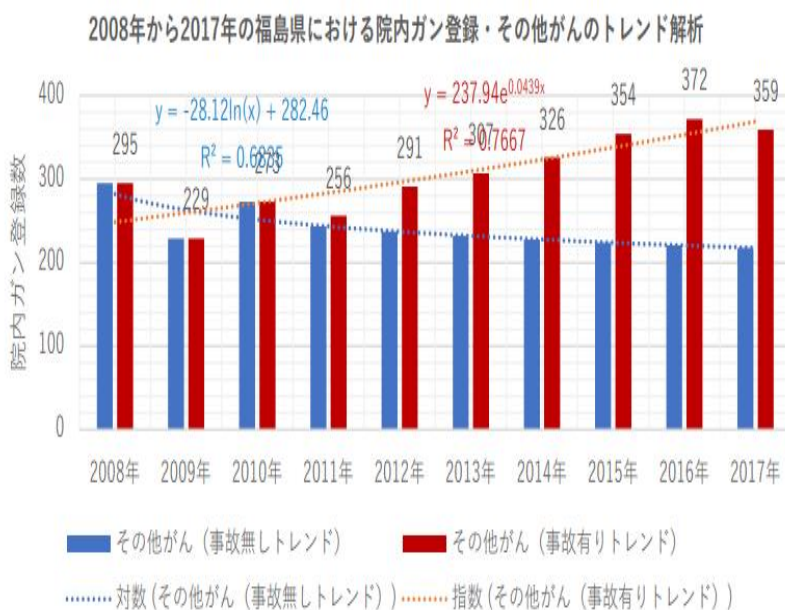
経過年	調査年	他の血液(事故無しトレンド)	他の血液(事故有りトレンド)	原発事故発ガン寄与率(%)
	12008年	48	48	
	22009年	55	55	
	32010年	76	76	
	42011年	78	91	13.8
	52012年	84	108	22.4
	62013年	88	104	15.3
	72014年	92	116	20.9
	82015年	95	109	12.9
	92016年	98	141	30.6
	102017年	100	177	43.3
	合計(2011年~2017年)	635	846	24.9



2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・その他のがんのトレンド解析

- ①原発事故原因で2017年までに増加したその他のがん登録者の合計人数→662人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは指数関数(急増型)であり2011年には16.7%、2017年には56.9%にまで増加し、この傾向は今後も持続すると推定される。

経過年	調査年	その他のがん (事故無し トレンド)	その他のがん (事故有り トレンド)	ガン過剰数	原発事故 発ガン寄 与率 (%)
	12008年	295	295		
	22009年	229	229		
	32010年	273	273		
	42011年	243	256	13	4.9
	52012年	237	291	54	18.5
	62013年	232	307	75	24.4
	72014年	228	326	98	30.1
	82015年	224	354	130	36.7
	92016年	221	372	151	40.7
	102017年	218	359	141	39.4
	合計(2011年~ 2017年)	1603	2265	662	29.2



【著者紹介】山田國廣氏プロフィール

1943年大阪生まれ。1996年京都工芸繊維大学大学院修了後、大阪大学工学部助手。1997年より京都精華大学人文学教授。NPO法人木野環境理事、工学博士、現在は京都精華大学名誉教授。

1970年頃から瀬戸内海や琵琶湖の環境汚染の調査研究を始める。1980年からは水道水中のトリハロメタン問題や地下水汚染問題に取り組む。1980年代後半からゴルフ場乱開発問題に取り組み、環境問題が起こっている現場において被害者の立場から解決策を見出す環境学を実践している。

著書には「ゴルフ場亡国論(藤原書店)」「フロンガスが地球を破壊する(岩波ブックレット)」「なぜ首都圏でガンが60万人増えているのか(風媒舎)」「核分裂・毒物テルルの発見(藤原書店)」など多数。

テルル毒本 No.5

『福島県において22部位のガンが原発事故要因で急増していた』

頒 価:500円(税込)

発行日:2023年12月1日 初版第1刷発行

著 者:山田 國廣

発行人:福島原発事故放射能汚染公害被害原因裁定を求める会